

明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が全世界で広がり、約2年が経過しました。この間、わが国では度重なる感染拡大や緊急事態宣言等の発令により、社会経済活動が大きく制限され、特に昨年夏場には感染力の強いデルタ株が猛威を振るい、一段と厳しい状況が続いてきました。

秋口には、ワクチン接種の進展とともに第五波が落ち着き、少し息を吹き返したところもありますが、一方でエネルギーや原材料価格の高騰、サプライチェーンの混乱など構造的な問題にも直面しています。

今後、感染防止と経済活動の正常化を進めると同時に、環境変化に耐えうる持続可能な社会経済を形成していくことが強く求められます。こうした中、神戸商工会議所では次の3つの分野を重視し、事業活動を進めて参ります。

一つ目は「**事業継続・発展に向けた支援**」です。

商工会議所では、一昨年の感染拡大時から今日までの間、融資や補助金、各種施策の相談対応に全力を挙げ、地元中小企業の事業継続を支援すべく、文字通りエッセンシャルワーカーとして現場の最前線で奔走してきました。

一部で業況回復の兆しが見えつつあるも、内需型・輸出型企業ともにコスト高や供給制約が経営の大きな足かせとなる中、従来の支援業務に加え「中小企業再生支援協議会」や、昨年4月に開設した「事業承継・引継ぎ支援センター」とも緊密に連携し、会員の皆様の事業の継続・再

生・承継を総合的にサポートして参ります。

また、リアルの現場だけでなく、越境ECやSNS・動画などオンラインを活用した、国内外への販路拡大支援にも注力し、売上・需要回復に繋げていきます。

二つ目は「**ビジネス変革の促進**」です。

ウィズコロナの中、環境変化をチャンスと捉え、企業自らのビジネス変革に繋げていくことが期待されます。

その一つが「デジタル化・DX」です。コロナ禍でわが国のデジタル化の遅れが顕在化し、政府では新たにデジタル庁が発足しましたが、企業経営においてもデジタル化への関心は急速に高まっています。

当商工会議所では、現在、DX導入支援に力を入れており、製造業、店舗、AI活用など様々なテーマで事例やツールを紹介するセミナーを開催し、1年間で延べ1,300人以上に参加を頂きました。今後、各企業の本格的な実践に繋がるよう、伴走型でのサポートにも注力していきます。

また、コロナ禍の苦境にあろうとも新しい事業や業態にチャレンジする企業が増えていることは心強く、会議所としても政府や自治体の制度を活用した事業再構築の支援はもとより、スタートアップとの協業やオープンイノベーションの活用など多様なテーマの企業間アライアンスの機会提供にも取り組んで参ります。

三つ目は「**交流再開、都市基盤整備の推進**」です。

兵庫・神戸は阪神・淡路大震災からの復興の過程で、多くの負債を抱え、都市基盤整備の遅れを余儀なくされました。四半世紀を経て、これからというタイミングでコロナ

禍に見舞われたわけですが、来るポストコロナ時代に、再び成長軌道を描いていくためには、広くグローバル都市の中で選ばれる街にならなければなりません。

すなわち、国内外から人や企業を呼び込み、働き場所を増やし、人口減少をくい止めていくことが重要であり、そのためには、街や産業に積極投資していくことがカギとなります。

昨年、神戸港を臨むウォーターフロントの再開発が大きく進みました。オフィスや集客施設を核とした新たな魅力拠点の誕生による躍動感を感じたところであり、こうした都市が変貌するダイナミズムを神戸の玄関口である三宮や新神戸、各拠点駅前の再整備にも広く波及させ、内外により力強く発信していくことが、これからの神戸に求められます。

同時に、次々と出現する変異株を抑えながら、インバウンドの受入れなど来るべき国際交流の復活に向けた準備を進めていくことが必要です。

神戸では医療産業都市を起点に、自動PCRロボットによる大量検査やスーパーコンピュータ富岳によるシミュレーションなど、交流復活を進める上で有効なイノベーションも生まれてきています。

3年後の2025年には大阪・関西万博が開催されます。大阪だけでなく兵庫・神戸を含めて関西一円に多くの方々を迎え、各企業の先進的な取り組みや関西全体の魅力をアピールする絶好の機会となります。

神戸においても、ここを当面の大きなゴールとし、本格的な交流再開や都市基盤整備を進め、とりわけ、神戸が真の意味で国際交流のゲートウェイとなるためにも、神戸空港の国際化、空港と都心部とを結ぶ南北アクセスの抜本強化に向けた動きを加速させていかなければなりません。

地元経済界として、兵庫県、神戸市等とより緊密に連携をはかり、この一連の取り組みをストーリーとして紡ぎながら、新たな産業集積や地域経済の発展に繋がるよう尽くして参ります。

今、長引くコロナ禍で不確実性が高まる一方、世界では、生活者の価値観や働き方が変化し、また気候変動対策、カーボンニュートラル実現に向けた対応が進むなど、サステナブルな資本主義が新たな潮流となっています。その変化や、根底にあるデジタル革命の動きを捉え、イノベーションを生み出していくことが大切であり、先に述べた神戸の都市や産業の持つポテンシャルを如何なく発揮すれば、必ずや次の成長ステージに繋げていけるものと私は確信しております。

本年は、厳冬を越えて芽吹き、新しい成長に繋がる壬寅の年です。

神戸商工会議所は、オール神戸、フォア・ザ神戸の精神で、会員の皆様とともに、パンデミックを乗り越え、街と企業を次の世代に繋いでいけるよう総力を挙げて取り組んでいく所存でございますので、本年も引き続き格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭所感

パンデミックを乗り越え 神戸の街と企業を次世代へ繋ぐ

神戸商工会議所 会頭 **家次 恒**

